



日蓮宗 法音寺

法音

今月のご法話

心を磨く

令和7年
7月号
No.669



悦可衆心

よい教えを伝えよう
おし つた

今日一日、

人に感謝しましょう

今日一日、

人に親切にしましょう

今日一日、

人を善に導きましょう

月刊・法音 令和7年7月号 No.669 目次

【信仰の指針】忍辱 にんにく 感情に流されないようにしましょう 1

心を磨く 山首 鈴木正修 2

◆講日のご案内 21

◆有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 22

【特集】令和七年 御開山会 24

◆ほうろく加持・虫封じ祈禱のご案内 28

◆仏教漫画『日蓮さま』・39甲州法華経石 29

◆鵜飼山遠妙寺 37

◆お寺の本棚 38

◆常寂光土への誘い (36) 40

◆のりのね体験 44

◆支院だより・鈴木正観上人宮支院新主管にご就任 46

◆福祉のひろば 51

○幸せのお手伝い 52

○昭徳会・永年勤続職員褒賞授与式・助成金等交付式を挙行 54

○日本福祉大学・分身ロボット『Orin』パイロットをゲスト講師にお迎えしました 56

◆御開山会の記事が仏教タイムスに掲載されました 58

◆賛助員ご芳名 59

◆幸せの種まき／編集後記 60

◆連載まんが・ひまわり・150 前向きでいこう 61

◆法音寺の社会福祉・教育事業 61

掲載写真 表紙・信仰の指針 3頁・21頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・24頁・27頁・加納将人氏撮影

表紙写真・アジサイ

信仰の指針

に
ん
に
く

忍辱

感情に流されないように

しましよう

日教五



ナンテンの花



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

心こころを磨みがく

いま
今から116年前、ねんまえ
杉山辰子先生が法音寺の前身である
「仏教感化救済会」を創設そうせつされました。その後、法音寺と
なるまでに何度も名称めいしょうが変わっています。「仏教修養団」
「仏教感化修養団」「仏教澍徳修養団」「大乘修養団」と、
いずれの名称めいしょうにも「修養」の文字もじが含まれていました。修
養ようとは、日々努力ひびどりよくを重ねて人格じんかくを練ねり上げ、高たかめていくこ
とを意味いみします。先師せんしは修養しゅうようをととても重んじておられたの
です。

さいきん
最近ではあまり「修養」という言葉ことばが使われなくなりま
した。堅苦かたくるしいものと思われているのかもしれませんが。し
かし、私は人格じんかくを陶冶とうやするために修養しゅうようは非常に重要じゅうようである



とおも
と思えます。

《日常こそ修養の場》

中国・明の時代、今から約500年前、陽明学を大成した王陽明は、「事上磨錬」という教えを説きました。事上磨錬とは「人はすべからく事上に在って磨錬し、工夫を做すべし」ということで、この「磨錬し、工夫を做す」というのが修養するということです。「事上に在って」とは、「実際の事柄に即して」ということです。つまり、毎日の仕事はもちろん、挨拶や食事、掃除といった日常生活のすべての行いを修養と思って、心を込めて誠実に実践するということです。それによって気づきが深まり、人格が高められるということです。



《イチローさんの名言に学ぶ》

以前、毎日新聞に福岡ソフトバンクホークスの監督・小久保裕紀さんの文章が掲載されていました。小久保さんはイチローさんとの忘れられないエピソードがあると書いておられました。

小久保さんはプロ二年目で本塁打王を獲得しましたが、翌シーズンは慢心があったのか、成績が大きく落ち込みました。一方のイチローさんは三年連続の首位打者に驚進中という時のことです。

「その年のオールスターゲーム、二人で外野をランニングしながら、彼に聞いた。

『モチベーションが下がったことはないの？』

するとイチローは私を見つめながら、『小久保さんは数



字を残すために野球をやっているんですか?』と言った。

『僕は心の中に磨き上げたい石があります。それを野球を通じて輝かせたいのです』

自分はなんと恥ずかしい質問をしたのかと、顔が赤くなつた。彼の一言で、野球を通じて人間力を磨く、というキーワードを得た」

ちなみに、イチローさんはその後七年連続で首位打者となり、これは現在も破られていない日本記録です。アメリカ大リーグに渡った初年度にも首位打者となり、実質的に八年連続の快挙です。

また2004年には大リーグのシーズン最多安打記録を84年ぶりに更新し、この記録は現在も破られていません。通算4367安打のギネス記録を持つイチローさんは、今年



日本人で初めて大リーグの殿堂入りを果たしました。記者投票の得票率は99・7パーセントでした。満票には一票足りませんでした。イチローさんはその時、「一票足りないのはすごく良かった。完璧を追い求めて進んでいくのが人生。不完全であることが良いのです」と語ったそうです。求道者イチローさんの面目躍如たると思います。

《自助論との出会いと日本の修養時代》

日本は明治から大正にかけて、言うなれば「修養の時代」でした。明治維新によって士農工商という身分制度が廃止され、どのような身分の人でも努力すれば立身出世ができるようになりました。つまり、修養と努力によって道が開かれる時代になったのです。



明治維新の少し前、江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜の命により、中村正直という人物がイギリスへ渡航しました。彼は、12人の旗本の優秀な若者達の留学を監督するという立場で派遣されたのです。中村正直は、昌平黉という、現代言えば東京大学のような幕府の学校の開学以来の秀才でした。

当時のイギリスは「大英帝国」として七つの海を支配する世界最強の国でした。しかしよく見れば、日本と同じような小さな島国です。中村正直は、なぜこの小さな国が世界を制するほどの大帝国になれたのかと疑問を抱き、人に話を聞き、さまざまな資料にあたりましたが、答えは得られませんでした。

そして中村正直が帰国することになった時、イギリスで



親したしくなった人物じんぶつが当時とうじ、イギリスでベストセラーになった『セルフ・ヘルプ』という本ほんを饒別せんべつにくれました。

この本ほんは日本語にほんごで『自助論』と訳やくされます。帰国きこくの船旅ふなたびの中でこの本ほんを読よんだ中村正直なかむらまसानおは、これがイギリス繁栄はんえいの理由りゆうだぐと確信かくしんしました。

『セルフ・ヘルプ』とは、「天てんは自ら助たすくる者ものを助たすく」、すなわち「自助努力じじよどりよくし、修養しゅうようをする者ものこそが天てんに助たすけられる」ということです。この本ほんには独立独行どくりつどっこうの精神せいしんを思想的根幹こんかんとした、欧米史おうべいし上有名しじょうゆうめいな三百余人ひゃくよにんの成功立志談せいこうりっしだんが載のっています。中村正直なかむらまसानおは、イギリスには自助努力じじよどりよくの精神せいしんを持もつ人ひとがおほく、その結果けっかとして国くにが繁栄はんえいしたぐと考えたのです。中村正直なかむらまसानおは、日本にほんに帰国きこく後ご、すでに幕府ばくふはなくなっていましたが、徳川慶喜とくがわよしのおのいる静岡しずおかに赴おもいて、帰国きこくの報告ほうこくをし、



そこで『セルフ・ヘルプ』を翻訳し、『西国立志編』と題して出版しました。『セルフ・ヘルプ』の自助努力の精神は、近代国家と資本主義の形成期にあつて、新しい日本と自分の前途に不安を抱いていた多くの青年達に希望の光明を与えました。この本は福沢諭吉の『学問のすすめ』とともに明治の二大啓蒙書です。大正時代の思想家・吉野作造は「福沢諭吉は明治の青年に、日本人の『智』の世界を開いた。また『徳』の世界を開いたのは中村正直である」と言っています。

《心学に見る修養思想》

実は日本にはもともと、修養を重んじる伝統的な思想が存在していました。それは「心学」です。江戸時代中期、



徳川吉宗の時代から広まったとされています。

心学は、神道・儒教・仏教のそれぞれのエッセンスを取り入れ、わかりやすく実践的な教えにまとめた学問です。心学では「人間には心がある。心は玉のようなものだ。玉であれば、これを磨いて立派にすればいいはずだ」という考えから、「玉を磨くには磨き砂が必要である。その磨き砂は神道でもいいし仏教、儒教でもいい。また三つ合わせたものでもいい」としています。しかも心学は、高いところから一方的に教えるのではなく、聞く人と同じ目線まで下りてきて「良かったら聞いていきなさい」という姿勢で伝えます。

心学の歌に「分け登る 麓の道は多けれど 同じ高嶺の月を見るかな」とあります。山に登る麓の道は多いけれ



ど、登^{のぼ}ってみれば峰^{みね}から見^みえる月^{つき}は同^{おな}じだ^ミという意味^いで
すが、これが心^{しん}学^{がく}の思想^{しそう}です。

心^{しん}学^{がく}で最^もも有^{ゆう}名^{めい}な人^{じん}物^{ぶつ}が石^い田^だ梅^{ばい}岩^{がん}です。彼^{かれ}の教^{おし}えは「石^{せき}
門^{もん}心^{しん}学^{がく}」と呼^よばれ、現^{げん}代^{だい}でも多^{おほ}くの人^{ひと}に読^よまれています。

石^い田^だ梅^{ばい}岩^{がん}の『心^{しん}学^{がく}全^{ぜん}集^{しゅう}』の中^{なか}に、次^{つぎ}のよう^{よう}な問^{もん}答^{とう}があります。
ある日^ひ、ひとりの弟^{でし}子^こが梅^{ばい}岩^{がん}に尋^{たず}ねましました。

「忍^{にん}とい^いうこ^この極^{きよく}致^ちとは、ど^どうい^いうも^もの^もでし^しよう^{よう}か」
する^{する}と梅^{ばい}岩^{がん}は答^{こた}えましました。

「忍^{にん}は、忍^{にん}な^なき^きに^に至^{いた}つてよ^よしとす」

つま^{つま}り、我^が慢^{まん}し^しよう^{よう}と^とか忍^{にん}耐^{たい}し^しよう^{よう}とい^いった意^い
識^{しき}が^がな^なくな^なつ^つた状^{じょう}態^{たい}が、堪^{かん}忍^{にん}の理^り想^{そう}で^である^{ある}とい^いうの^のです。
至^し極^{ごく}あ^あた^たり^りま^まえ^えに無^む意^い識^{しき}の^の内^{うち}に堪^{かん}忍^{にん}で^でき^きる^るの^のが最^{さい}高^{こう}の^の境^{きやう}地^ち
とさ^される^{れる}の^のです。非^ひ常^{じょう}に^にお^おず^ずか^かしい^い境^{きやう}地^ちで^です^すが、心^{しん}学^{がく}で^では



ここに^{いた}至るために「^{かん}堪忍」についての^{おし}教えが^{ひじょう}非常に^{おお}多く^み見られます。

ここで^{しん}心学の^{かん}堪忍の話を一つ^{しょう}紹介します。

^{えど}江戸時代後期、^{てん}天保年間の頃のことです。^{ふくい}福井藩の^{うま}馬廻

^{やく}り役をつとめていた^み三好泰輔に、^{まつ}松之助という^{むすこ}息子がいま

した。^{まつ}松之助の^{あね}姉は^{じゅう}重要な^{ちい}地位にある人と^{ひと}結婚して^{けっ}いたの

で、^{かれ}彼は^{どう}同輩の^うねたみを^{えん}受けることになりましたが、^こ縁故

を利用して^り立身出世^{りっしんしゅっせ}することを^{きろ}嫌っていた^{まつ}松之助は、^{すけ}なに

ごとも^{ひか}控えめに、また^{けん}謙虚な^{たい}態度を^{まも}守っていました。

ある日、^ひ藩の^{はん}有力者の^{いえ}家を^{おそ}訪れ、その^{かえ}帰りを^ま待っていた

時の^{とき}ことです。^{りん}隣室に^{はん}藩中の^{わか}若侍が^い五、^{にん}六人^{あつ}集まり、^{まつ}松之

助の^{すけ}噂^{うわさ}をしています。



「女のお陰にすぎなければ、武士として出世できない男
ほど、恥ずかしいことはないな」

こんな言葉が笑いとともに聞こえてきます。松之助は力
ツとして、太刀の鯉口を切り、庭に出て隣の部屋に躍り込
もうとしました。その途端、彼の足が庭の敷石近くに生え
ていた『おじぎ草』に触れました。すると、おじぎ草は見
る間に頭をたれ、しぼんでいきました。松之助は、

「ああ、この小さな草にさえこの忍耐がある。人間である
自分が、このぐらいのことで怒ってどうする。がまんしよ
う」と思い、そのまま怒りを静めて自分の家へ帰っていき
ました。後年、松之助は藩の中でも異例の出世をしました
が、彼の刀の柄袋には「おじぎ草」の絵が描かれ、いつも
彼はそれを心の戒めとしていたということです。



《ユーモアで伝える心学》

心学しんがくの先生せんせい達は人ひとを集めては教えおしを説といていました。ひ
とりの心学しんがくの先生せんせいが、ある村むらで話はなをした時ときのことです。

「皆さん、堪忍かんにんをしましょう。『堪忍かんにん』というこの二文字もじ
を守まもれば、人生じんせいは安泰あんたいです」と言いうと、漢字かんじの読よめないお
じいさんが「先生せんせい、『かんにん』は四文字もじじゃないですか
？」と尋たずねました。

先生せんせいは「いやいや、堪忍かんにんは二文字もじです」と返かえしましたが、
おじいさんは「どう数かずえても四文字もじじゃ」と譲ゆずりません。
ついに言いい合あいになっなってしまいい、ついに先生せんせいが堪忍かんにんを破やぶっ
て「馬鹿者ばかもの！堪忍かんにんは二文字もじだ！」と怒鳴どなってしまいいました。
するとそのおじいさんが言いいました。「やっぱり堪忍かんにんは四
文字もじだな。わしは、四文字もじの堪忍かんにんを守まもっとるから怒おこりま



せんよ」と——これは心学しんがくの先生せんせいが一本取ぼんとられたというユニークな話はなしです。

落語らくごの中なかにも、心学しんがくの先生せんせいが登場とうじやうする演目えんもくがあります。

その一つが『天災てんさい』という噺はなしです。

主人公しゅじんこは、とても喧嘩けんかっ早い八五郎はちごろうという男おとこです。ある日ひ、八五郎はちごろうが近所きんじよのご隠居いんきよのもとを訪ねたず、「離縁状りえんじやうを二通つう書いてほしい」と頼たのみます。ご隠居いんきよが事情じじようを尋ねたずると、

「かかあがあまりにも頭あたまにくるんで張はっ倒たおしてやった。もう離縁りえんする」と八五郎はちごろうは言いいます。ご隠居いんきよが「では離縁状りえんじやうのもう一通つうは誰だれに渡わたすんだい？」と聞きくと、「それはババアにくれてやるんだ」と答こたえました。ババアとは八五郎はちごろうの母親ははおやのことです。



「かかあを張^はつ倒^{たお}したら、ババアが仲裁^{ちゆうさい}に入^{はい}って、かかあ
の肩^{かた}を持^もちやがった。だから今度はババアを蹴^け飛ば^としてや
ったんだ」

これはいかんと思^{おも}ったご隠居^{いんきょ}は、「まあ、離縁^{りえん}状^{じょう}は書^か
てやってもよいが、その前^{まえ}にちよつと手紙^{てがみ}を書^かいてやる。
この手紙^{てがみ}を持^もって、近所^{きんじょ}に住^すんでいる心学^{しんがく}の先生^{せんせい}のところ
に行^いって、話^{はなし}を聞^きいておいで」と言^いいます。

八五郎^{はちごろう}がその手紙^{てがみ}を持^もって心学^{しんがく}の先生^{せんせい}のもとを訪^{わづ}れると、
先生^{せんせい}は、なるほど、これは気性^{きしょう}の荒^{あら}い男^{おとこ}を諭^{さと}してくれとい
う頼^{たの}みだなと理^り解^{かい}し、教^{おし}えを説^とき始^{はじ}めます。

「短気^{たんき}は損気^{そんき}」「ならぬ堪忍^{かんにん}するが堪忍^{かんにん}」「堪忍^{かんにん}の袋^{ふろ}を首^{くび}
にかけ、破^{やぶ}れたら縫^ぬえ、破^{やぶ}れたら縫^ぬえ」「氣^きに入^いらぬ風^{かぜ}も
あろうに柳^{やなぎ}かな」などと話^{はな}しますが、八五郎^{はちごろう}はまったく聞^き



く耳^{みみ}を持ちません。

そこで最後^{さいご}に心学^{しんがく}の先生^{せんせい}はこう言^いいました。

「何事^{なにこと}も天災^{てんさい}〴〵と思^{おも}ってあきらめよ。急^{きゆう}に雨^{あめ}が降^ふってき

ても、天^{てん}と喧嘩^{けんか}はしないだろう。人^{ひと}に嫌^{いや}なことをされたと

しても、天災^{てんさい}と思^{おも}えばいいんだ。道^{みち}を歩^{ある}いていて小僧^{こぞう}が打^う

ち水^{みず}をして、その水^{みず}がかかったとしても、天^{てん}が水^{みず}をかけ

たのだ〴〵と思^{おも}えば腹^{はら}も立^たたない。路地^{ろじ}を歩^{ある}いていて瓦^{かわら}が落^お

ちてきても、〴〵これは天^{てん}が瓦^{かわら}を落^おとしたのだ〴〵と思^{おも}えば怒^{いか}

りようがない」

それを聞^きいた八五郎^{はちごろう}は、「確^{たし}かにそうだな。天災^{てんさい}だと思^{おも}

えば腹^{はら}も立^たたない。ありがとうよ」と言^いって帰^{かえ}っていきました。

心学^{しんがく}の先生^{せんせい}が「茶^{ちや}も出^ださず、お構^{かま}いもせず申^{もう}し訳^{わけ}なかつ

たな」と声^{こえ}をかけると、八五郎^{はちごろう}は「何^{なに}、天^{てん}が茶^{ちや}を入^いれな



ったんだ。天災とあきらめれば、なんでもねえや」と言い残して帰っていききました。先生は「少しは進歩したか」と苦笑しながら、八五郎を見送りました。

八五郎の長屋の隣には熊五郎という男が住んでいました。熊五郎は現在、女房と別れており、別の女性と暮らしていましたが、その日、たまたま別れた女房が家に来て、騒動になっていました。

そこに八五郎が帰ってきました。これはいい機会だ。先生に聞いた話を熊さんに教えてやろうと思うのですが、うる覚えのため話が伝わりません。

「短気は損気」を「たぬきはたぬき」、「ならぬ堪忍するが堪忍」を「奈良の神主、駿河の神主」、「堪忍の袋を首にかけ、破れたら縫え、破れたら縫え」は「神主の頭陀袋、



破れたら縫え、破れたら縫え」、「氣に入らぬ風もあろう
に柳かな」は「氣に入らぬ風もあろうにウナギかな」など
と、意味不明なことを言っています。

熊五郎が「結局、何が言いてえんだ」と言うと、八五郎
はこう締めくくります。

「いやいや、どんなに女房が怒鳴り込んでこようともな、
天が怒鳴り込んできたと思えばいいんだ。天災だと思えば
いいんだよ」

これに対して熊五郎が言った一言が落ちとなります。
「家に来たのは先妻だ」

このように、修養は時代や宗教を超えて、人間がより良
く生きるための根幹にある考え方であると思います。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。
是非講日にご参詣いただき
教えを心にしみ込ませましょう。

◆ 今月の山首上人さまご親修日程

大垣支院	7月1日(火)	岐阜支院	7月4日(金)
瀬戸布教所	7月9日(水)	三原支院	7月13日(日)

有縁の支院・布教所に、ご自由にござ参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	6日・13日・19日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・19日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	4日・13日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0586)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	4日・12日・18日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)391-9733
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・13日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	6日・14日・20日	関市市平賀213-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	6日・13日	郡上市八幡町小野721-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山事務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	6日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	6日・19日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	12日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)421-0175
岡山支院	6日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	10日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	6日・20日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	13日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	5日・20日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	12日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	6日・27日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・20日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・26日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	14日・27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

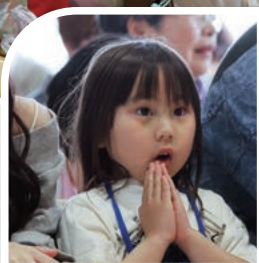
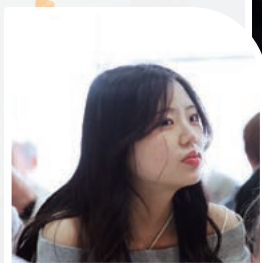
※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

〔令和七年〕

御開山会



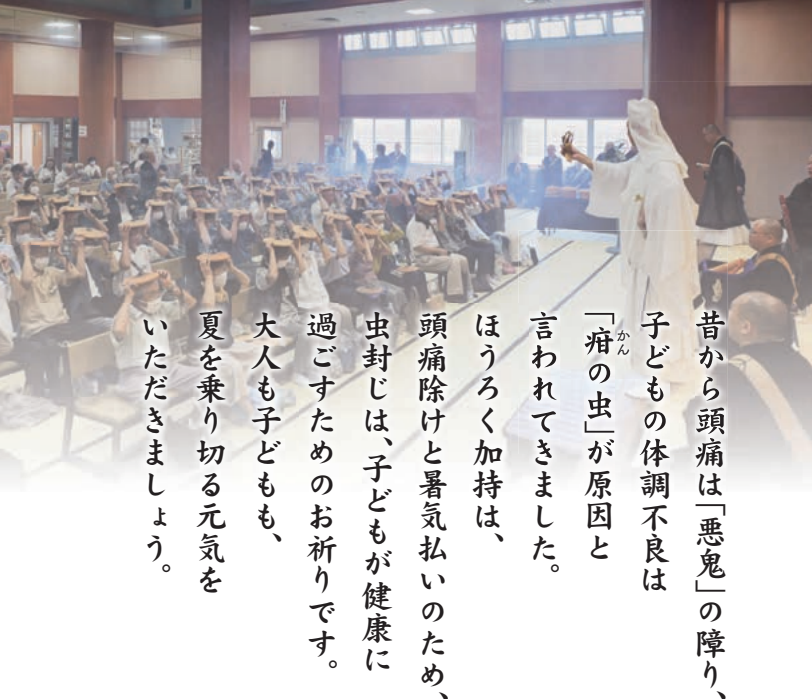






令和七年

ほうろく加持・虫封じ祈祷



昔から頭痛は「悪鬼」の障り、
子どもの体調不良は
「^{かん}疳の虫」が原因と
言われてきました。
ほうろく加持は、
頭痛除けと暑氣払いのため、
虫封じは、子どもが健康に
過ごすためのお祈りです。
大人も子どもも、
夏を乗り切る元気を
いただきます。

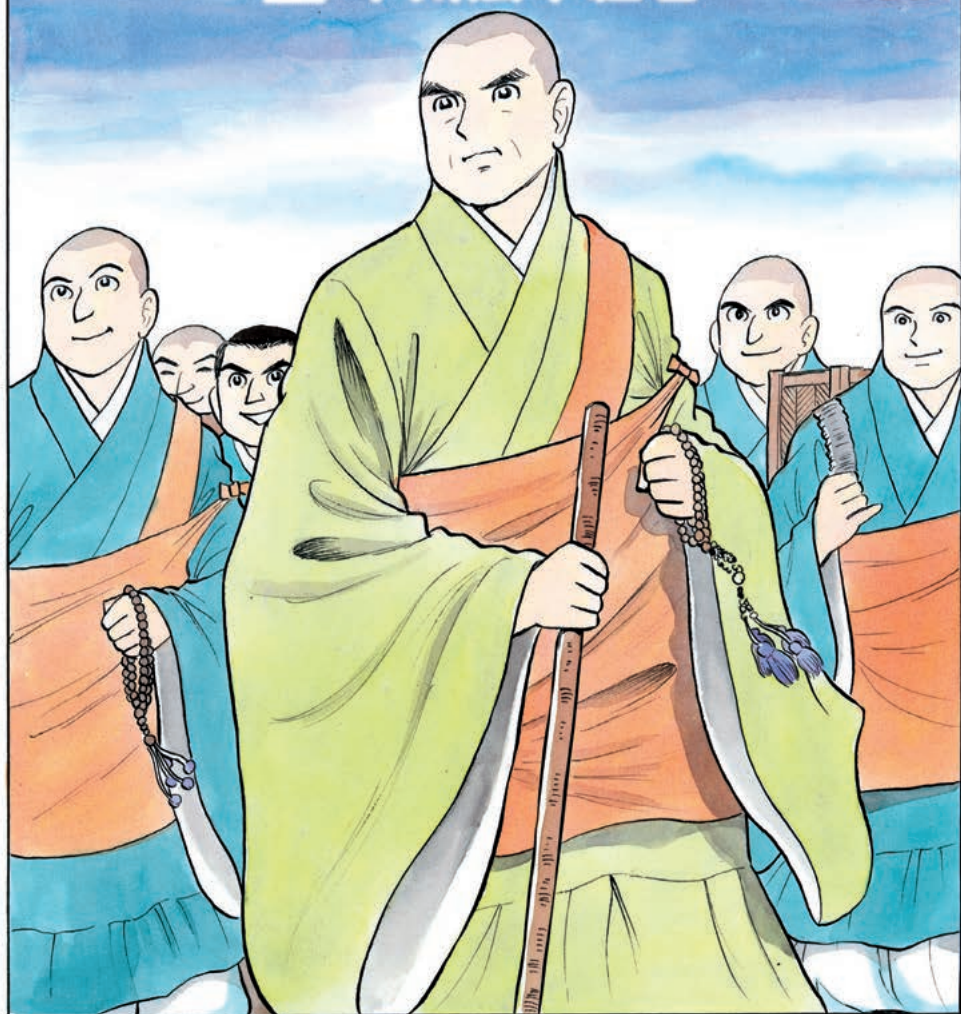
日程	中国（三原支院）	7月13日(日)
	関東（東京支院）	7月19日(土)
	東海（本山）	7月20日(日)
	関西（大阪支院）	8月 3日(日)

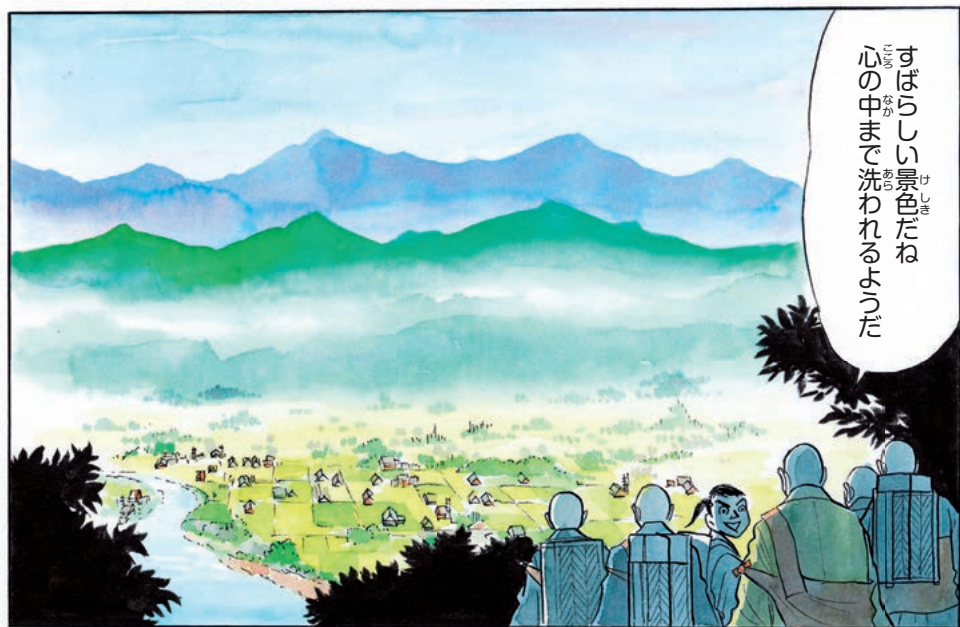


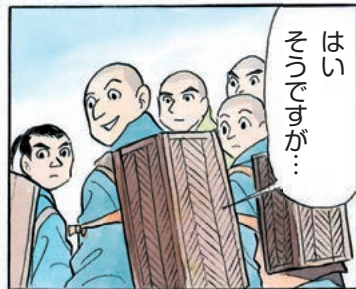
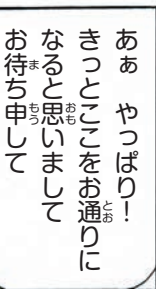
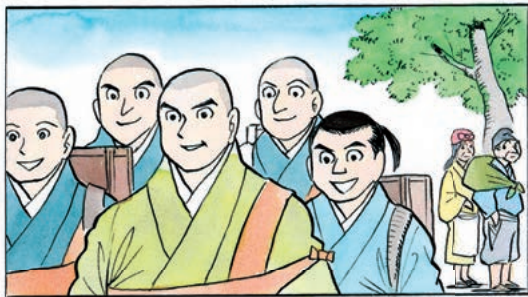
※お寺に来られない方もタオルや衣類などでご祈念いたします。どなたでもお受けいただけますので、ぜひご参詣ください。お問い合わせは最寄りの支院・布教所まで。

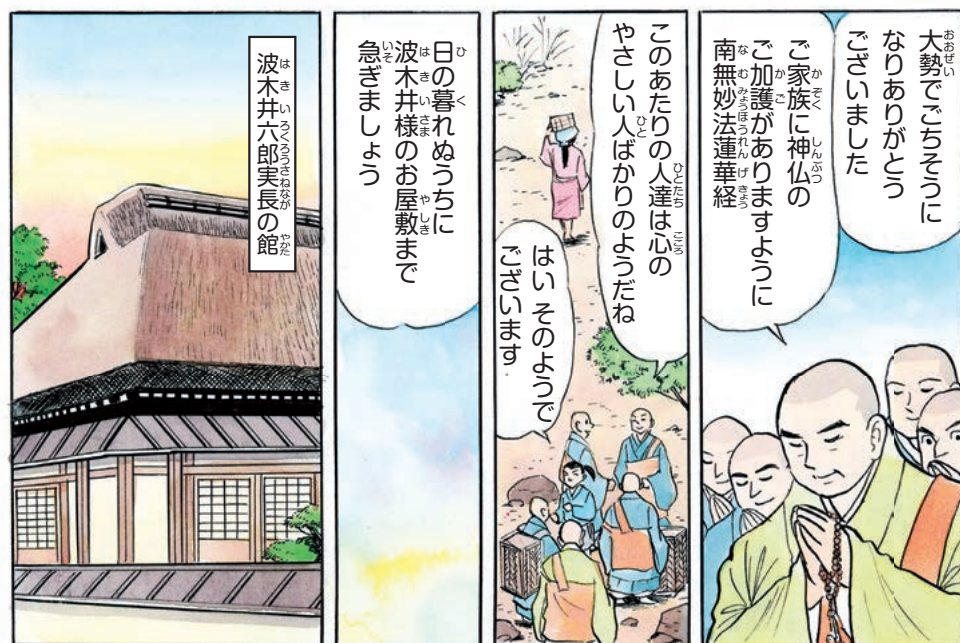
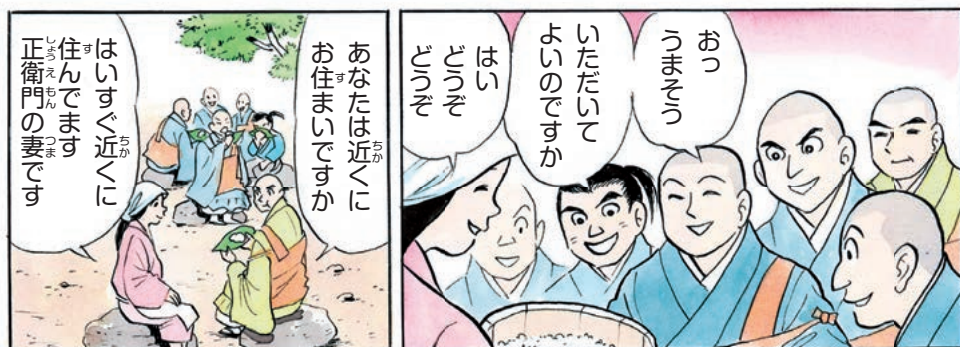
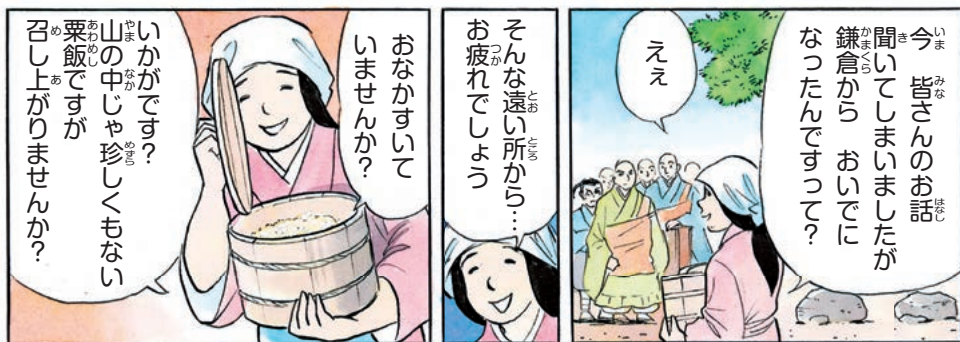
に ち れ ん
日蓮さま

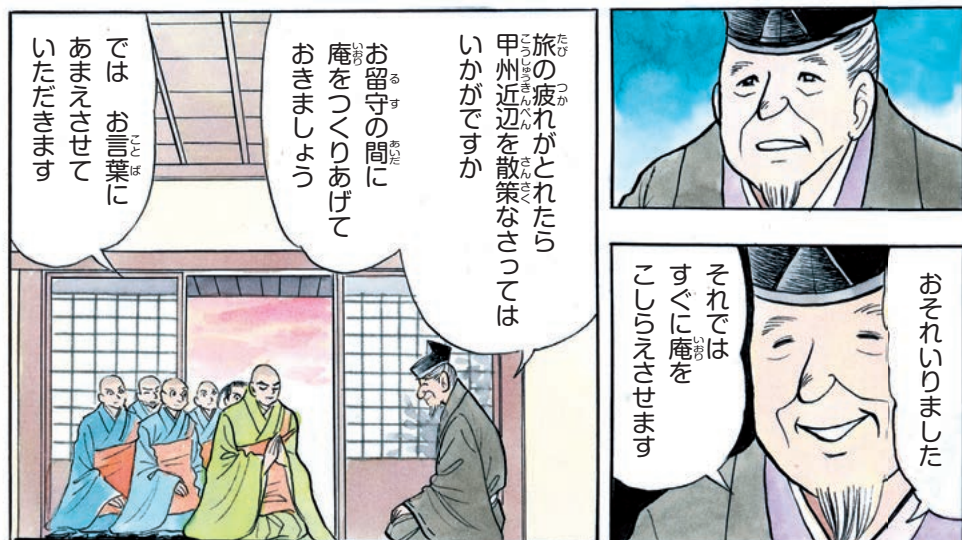
39 こうしゅう ほ け きょう せ き
甲州法華經石

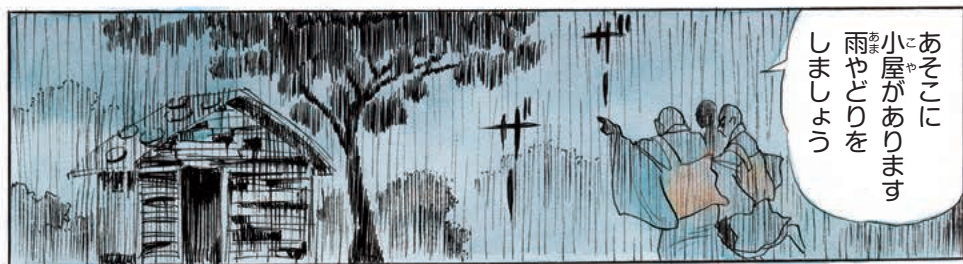














さすが あなたさまは
お徳の^{とく}高い^{たか}お坊さまだ
わしの話を^{はな}聞いて
くださるか

うかがいましょう

ご老人^{ごらうじん} 何か
つらい^{つらい}ことでも
おありですか

わしは
このとおり^{このとおり}鵜匠^{うしやう}だ
生き物の^{いきもの}命^{いのち}を奪^はって
細々^{ほそそ}と
おいぼれた^{おいぼれた}命^{いのち}を
長^{なが}らえておる



罪^{つみ}深い^み老^{ちの}じや
この悪業^{あくごう}から
のがれることは
できない^{できない}ものか
なにとぞ
あなたさまの
法力^{はつりき}をもってわしを
お救^{すく}いください



承知^{しやうち}しました
お経^{きやう}をお唱^{とな}え
いたしましょう



我此土^{がしと}安穩^{あんゑん}

天人^{てんじん}常^{じやう}充^{ちゆう}満^{まん}

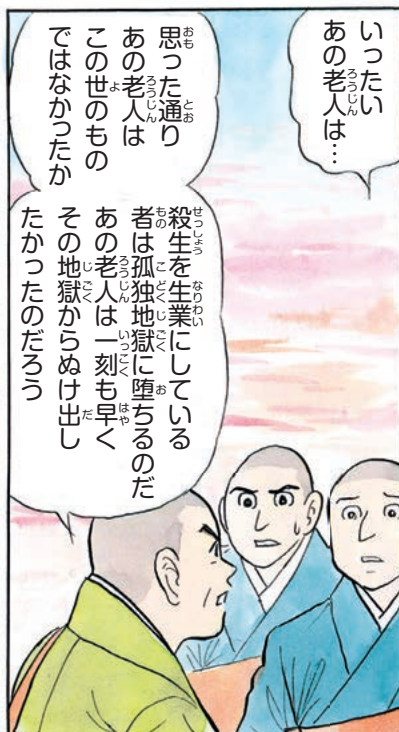
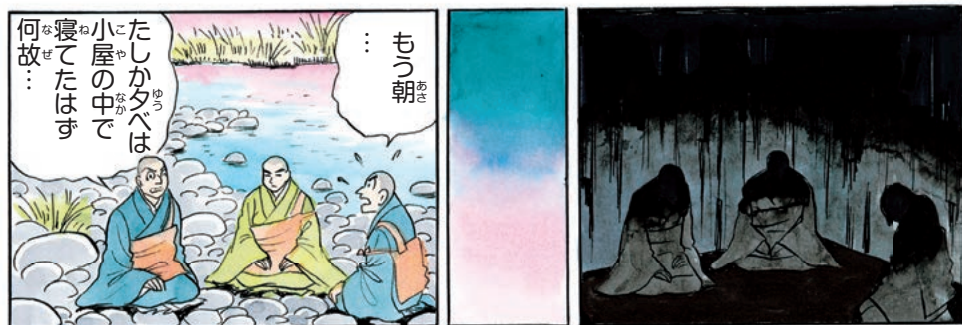
園林^{おんりん}諸^{しよ}堂^{だう}閣^{かく}

種種^{しじゆ}宝^{ほう}莊^{じやう}嚴^{げん}

宝樹^{ほうじゆ}多^た華^け果^か…



ご老人^{ごらうじん}
宿業^{しゆくごう}の闇^{やみ}に一筋^{ひとすぢ}の
光明^{くわうみん}がさしこんで
おりますぞ



鵜飼山遠妙寺

石和温泉の笛吹川のそばに鵜飼山遠妙寺があります。1390（明德元）年の創建とされています。その昔、江戸方面から甲州街道を歩いて身延山久遠寺へ向かう参詣者達がこの寺に立ち寄り、旅を続けたのだとか。

遠妙寺では山号にある「鵜飼」にかかわる伝説が語り継がれています。平安時代に禁漁とされていた笛吹川で鵜飼をした勘作という鵜匠が極刑を言い渡され、簀巻きにされて川へ沈められました。その後、勘作の亡霊が、夜な夜な村に現れるようになりました。1274（文永11）年、日蓮聖人とご一行が通りがかり、その亡霊に遭遇します。日蓮聖人が川原の小石に法華経の文字を一字ずつ書き写して川底に沈め、供養を営んだところ、亡霊は成仏したそうです。この時に日蓮聖人が作った塚が遠妙寺の始まりとされています。この伝説は、室町時代に世阿弥元清によって書かれた謡曲「鵜飼」のもととなったそうです。



伊達家本『能絵鑑』「鵜飼」

お寺の本棚

『転法輪 鈴木宗保上人の世界』

孟蘭盆御書―餓鬼道から

母を救った目連尊者

悪の中の大悪は我が身に其の苦を受くるのみならず、子と孫と末七代までもかかり候いけるなり。善の中の大善も又かくの如し。目連尊者が法華經を信じまいらせし大善は、我が身仏になるのみならず父母仏になり給う。上七代下七代、上無量生下無量生の父母等、存外に仏になり給う。乃至子息・夫妻・所従・檀那・無量の衆生、三惡道を離るるのみならず、皆初住妙覺の仏となりぬ。故に法華經の第三に云く、願わくば此の功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん云々。

世間では、信仰というと、自分のことばかり考えて、とにかく自分の都合さえ良くなればと願っている人が多いようですが、法華經の信仰は、そんな狭い考えでは成り立ちません。自分



が本当に良くなるには、良い人と言われるような行いのできる人にならなければならないのです。

慈悲、至誠、堪忍の三徳を忘れないようにして、人に喜びを与え、自分も良かったと喜べる行いを実践することが肝要なのであります。自分の行いによって良い感化を与えていけば、相手の人も、きっと良い心の持ち主になってくれるであります。このようにして、自分のまわりにある人々が良い人になり、自分も良くなるように努力し、お互いが相手を思いやり、ともに手をとり合って励んでいくのが、法華経の信仰であります。

人々とともに築き上げていく功德でありますから、その功德は思いのほかに大きいのであります。その大きな功德は、自分のためになるばかりでなく、因縁ある広い範囲に及ぼして、苦をのぞき、幸せを与えます。自分の周囲にある人々に喜びをもたらし、遠い先祖の供養に及び、先々の子孫の幸せに連なり、ともに成仏の道を歩ませることができ、はては無量の過去世において生を受けた父母、また無量の未来世に生を受けるであろう父母の仏果にまで及んでいくというのでありますから、まことに尊い善根功德なのであります。

法華経の信仰をしている人は、このような広大なる善根功德を、今、今世において積み重ねていくことができるのであります。生を受けたことを感謝し、一層の努力精進をしなければならぬと思うのであります。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (36)

無量義經 十功德品第三

善男子、是の如き無上大乗無量義經は、極めて大神の力ましまして、尊にして過上なし。

能く諸の凡夫をして皆聖果を成じ、永く生死を離れて皆自在なることを得せしめたもう。

是の故に是の經を無量義と名く。

このように立派な無量義經を信じていけば、その信の力が自然に周囲を動かして、その力があらゆる方面に加わって大勢の人に感化を与え、利益を与えるという大きな働きができるということです。これを「威力神力」と言われています。尊いことこれより上のものはありません。なぜかと言えば、「凡夫をして皆聖果（聖者）宗教的に勝れた人の境界」を成じ、永く生死を離れて皆自在なることを得せしめ」るからです。ですから、是の經を無量義というのであります。

能く一切衆生をして、凡夫地において諸の菩薩の無量の道牙を生起せしめ、功德の樹をして鬱茂扶蔬増長せしめたもう。是の故に此の經を不可思議の功德力と名く。

「能く一切衆生をして、凡夫地において諸の菩薩の無量の道牙を生起せしめ」Ⅱまだ凡夫の境界にいる多

くの人々に、どうか尊い行いをして行きたいという菩薩の心を生じさせ、「道牙」^{どうが} 望みを起こすように導き、そのためには何から手をつけて進んだらよいのか、ということに気がつくように教えなさい、というのです。そうすると、大乘のみ教えを学んで善い行いをしていけばその善根によって智慧が伸び、勝れた者になっていくということがわかります。

「功德」とは、世のため・人のために尽くす働きをすることであり、「鬱茂扶蔬増長」^{うつむふそぞくちよう}とは、樹木が盛んに茂り、枝が分かれて太くなることで、功德の樹が伸びて周囲の境遇・事情をよく見分け、多くの人々を導き、喜ばせるようになるということです。そうやって初めて、自分も人も満足できるようになり、仏さまのお心を自分の心とするという根本の教えを得る、不可思議な力を生み出すというのであります。

時に大莊嚴菩薩摩訶薩^{だいしやういんばさつまかざつ}及び八万の菩薩摩訶薩^{はつばんばさつまかざつ}、声を同うして仏に白して言さく、世尊、仏の所説の如き甚深微妙無上大乘無量義経は、文理真正に、尊にして過上なし。三世の諸仏の共に守護したもう所、衆魔群道、得入することあることなく、一切の邪見生死に壊敗せられず。

その時に大莊嚴菩薩摩訶薩^{だいしやういんばさつまかざつ}及び、大勢の菩薩は声を揃えて仏さまに申されました。

「世尊に申し上げます。仏さまのお説きになられました無量義経は、修行をする者^{しやうぎん}に力をお与えくくださる大切なみ教えでありまして、常に仏さまがお守りになっていらっしゃる、この上もなく尊いみ教えでござ

います。どんな悪魔が来ても、群道（仏教以外の道を説く外道のもの）が来ても、妨げをすることはできないでありましよう」

「一切の邪見生死に壊敗せられず」 邪見とは、自分の煩惱を中心として物事を考えること。生死はあらゆる人生変化ですが、「邪見生死」の世界のものにこのみ教えが妨げられるようなことはない、ということです。

是の故に此の経は乃ち是の如き十の功德不思議の力います。大に無量の一切衆生を饒益し、一切の諸の菩薩摩訶薩をして各無量義三昧を得、或は百千陀羅尼門を得せしめ、或は菩薩の諸地・諸忍を得、或は縁覚・羅漢の四道果の証を得せしめたもう。世尊慈愍して快く我等が為に是の如き法を説いて、我をして大に法利を獲せしめたもう。甚だ為れ奇特に未曾有なり。世尊の慈恩実（じおんじつ）に報すべきこと難し。

「この経には、今お話しいただきましたように十の功德があり、不思議の力が具わっております。このみ教えを弘めていけば、『一切衆生を饒益し』 人々の持っている尊い心を育て、余すところなく利益を与え、すべての菩薩達に無量義三昧に入らせ、大勢の人に善い行いを続け、悪を止めるといふ『百千陀羅尼門』を得させることができ、さらに修行を重ねていくなら『菩薩の諸地（十地）・諸忍（堪忍）』を得、或は縁覚・羅漢の四道果（声聞の四果）を得せしむることができるのでありましよう。世尊は、私どもが『仏

の性質』を持っていながらそれを發揮できないことを哀れに思われてみ教えを説かれ、『大いに法利を得せしめる』道を捉えていくよう導いてくださいました。これは誠にありがたいことであります。世尊が私どもを慈しみ、お恵みくださるご恩には、どうしてお報いしたらよろしいでしょうか。私どもはそれを考える時、世尊の『一切衆生を救う』というお考えを自分の思いとして、一人でも二人でも自分の力の及ぶ限り正しいみ教えの道に入らせて仏果を成ぜしめ、本当の安樂・本当の喜びを与えていくようにしなければならぬと思うのです。世尊は、『仏の教えを弘めて、一人でも多く仏に帰依する人をつくるようにすれば、それで仏恩に報ずる道が立つ』というようにお説きくださいましたが、そのご恩に報いるのはなかなかむずかしいように思います」。

福祉の ひろば



幸せのお手伝い

～入居者さまの

帰宅支援を通して～

幸せのお手伝い

私の強く印象に残っていることは、昭徳会に入職して5年目の冬に、入居者・Aさんの帰宅支援を行ったことです。

「家の仏壇に手を合わせたい」

それがAさんの願いでした。まだ5年目の自分に計画できるか不安はありましたが、入居者さまの願いを叶えるお手伝いがしたいという明確な目標があったので、先輩職員からアドバイスをいただきながら、帰宅支援の実現に向けて準備を進めました。



当日、ご家族の協力もあり、予定通り自宅に帰宅することができました。お仏壇の前に来た時、Aさんはそっと手を合わせてしばらく黙っていました。そして「お墓に行きたい」と言いました。予定にはないことでしたが、Aさんの想いを汲ん

で、行くことになりました。普段は独歩の方ですが、お墓には段差が多く、転んでしまう可能性もあると考え、車椅子で行くことにしました。しかし思った以上にお墓までの道は石も多く、段差もあったため、「入口手前でお参りをしましょう」とご家族と話していた時、Aさんが「気をつけて歩くから連れて行って」と私の手を握りました。左側をご家族に支えていただき、右側を私が支え、ゆっくり歩いてお墓まで行きました。お墓の前でAさんはゆっくりと手を合わせながら「ありがとうございます」と泣いていました。その様子を見てご家族も泣いていました。その後ろで私も泣いてしまいました。

外出時のスケジュールの計画、ご家族との綿密な打ち合わせなど大変なことも多かったですが、この瞬間にまだ5年目の私が立ち会わせていただ

けたこと、本当に貴重な体験をさせていただいたと思っています。また、ほんの少しですが、幸せのお手伝いのできたのではないかと感じています。この時の体験が、今の私の土台となっており、外出支援に力を入れるきっかけとなっています。

安立荘 介護員 酒井 香奈



永年勤続職員褒賞授与式・助成金等交付式を挙行



写真提供・昭徳会

～笑顔と感謝があふれる1日でした～

令和7年6月2日、法音寺本堂にて「永年勤続職員褒賞授与式」並びに「助成金等交付式」が執り行われました。

式典開催に先立ち、鈴木正修理事長（法音寺山首上人）より、ご挨拶をいただきました。「永年勤続職員褒賞」というものは、ただ単に長く昭徳会に在籍されているということを読めるものではありません。それだけの期間を昭徳会とともに歩み、利用者の方々の幸福に寄与し、なお今日の昭徳会の発展に貢献されているからこそ褒賞に値するものであります。今後とも職員の皆さまが健康に留意され、さらなる活躍をされるよう、心から期待しております」と温かいお言葉が贈られました。

その後、正規職員の永年勤続職員褒賞対象者31名（勤続30年4名、勤続25年3名、勤続20年5名、勤続15年8名、勤続10年11名）、勤続20年パート職員3名、助成金交付対象者34名、計68名に対して、賞状と褒賞金及び助成金が、鈴木理事長より、一人ひとりに直接授与されました。

助成金は、国家資格などを取得した者に贈られますが、福祉関係の資格だけでなく、ＩＴパスボ

ート、衛生管理者など、さまざまな資格が対象となつていきますので、今年度も多くの職員が交付を受けました。また、複数の資格を取得した職員もあり、こういった表彰を受ける機会があるため、学びへの意欲につながっています。

式典の最後には、永年勤続職員褒賞受賞者を代表して、勤続25年褒賞の濱田光男施設長（駒方寮）より、謝辞が述べられました。「歴史ある社会福祉法人に在籍し、25年もの間、勤めさせていたなか、改めて、お祝いいただけるありがたさを感じております。これまでの社会福祉行政は、対象者ごとに公的な支援制度が整備・充実されてきましたが、昨今は家族や地域機能等が弱まり、生活課題



がより明確化されていると感じます。保育・児童・障がい・高齢者と複数の分野にわたり事業展開しているこの昭徳会だからこそ、各分野の専門性を越えた連携・協働により、制度の狭間で困っている方々への支援につながっていくものと考えます。故に、第2次世界大戦後にイギリス政府が掲げた社会福祉政策のスローガン『ゆりかごから墓場まで』を実直に実践している懐（ふところ）の深い社会福祉法人であると信じておりますので、私も微力ではございますが、引き続き少しでも役に立てるよう精進してまいります」と感謝と決意の言葉が伝えられました。

式典後は、会場を浜木綿山手通本店に移し祝賀会を開催しました。各テーブルで「おめでとう！乾杯！」と声をかけ合い、話に花が咲いていました。また、勤続30年、25年、20年の職員の皆さんにインタビューを行い、若かった当時のエピソード、利用者さんとの思い出などを鈴木理事長の前でお話いただきました。上司や先輩、同僚への感謝の思いを伝え合う、素敵な時間となりました。

法人本部事務局 人事部 事務員 金子 真帆

健康科学部の授業で、分身ロボット『OriHime』パイロットをゲスト講師にお迎えしました

～日本福祉大学～

5月17日（土）、リハビリテーション学科作業療法
学専攻3年の授業において、分身ロボット『OriHime』
パイロットとして活躍されている通称コーキさんをゲ
スト講師としてお迎えし、頤髄損傷者のリハビリテー
ションと社会生活の實際を
学びました。

コーキさんは、高校3年
生の時に事故で頤髄損傷を
患われ、重度の身体的障
いを負われました。医療的
リハビリテーションの加療
を受けた後、自宅に復帰さ
れ、30年以上にわたりさま
ざまなチャレンジを続ける中、



分身ロボット『OriHime』に
出会われました。『OriHime』
は、開発者の吉藤オリイさん
が昭徳会創立110周年記念
福祉セミナー（2022年）
でもご講演されていますが、

AIを搭載せず遠隔でパイロ
ット自身が操作するロボット
で、自分がそこにいる感覚

が感じられる特性があります。コーキさんは、自宅に
居ながら、東京日本橋にあるロボットカフェD'A'WN
で接客業務をしたり、外国でイベントのガイドを務め
たりと、文字通り東奔西走の大活躍をされています。
新たなテクノロジーが社会参加のチャンスを生み出す



ということ、作業療法士は、常にアンテナを張って情報を収集し、当事者の疾患や障がいと環境因子のマッチングを意識する必要があること等を学ばせていただきました。

【受講した学生の感想】

・ 今回の講義を通して、分身ロボットOriHimeは社会参加を助ける一つのツールとして使われていることがわかりました。OriHimeを使うことで、パイロット自身、現地にいるような感覚になれるし、私もコーキさんがその場で話しているような感覚になりました。

・ いつもありがとうと言っている側だったけど、社会参加を通じて感謝の言葉をもらえることがうれ



しいとおっしゃっていました。それが印象に残っています。

・ 社会に貢献することで、自分に役割があることに自信が湧き、自己肯定感が高まると知りました。社会に参加することは、自分の役割を認識でき、生きている意味を見出すことにつながるので、とても大切だと思いました。

・ 当事者にしかわからない気持ちや苦勞を聞くことができて、非常に勉強になりました。

・ 作業療法士として、沢山の引き出しを持ち、選択肢を広げ、いろんな世界を提案できるように、広くアンテナをはって情報を取集したり、いろんな活動に挑戦したりしていきたいなと思いました。



御開山会の記事が

仏教タイムス(第3083号 令和7年6月12日)に掲載されました

名古屋・法音寺で御開山会

堪忍の実践呼びかける

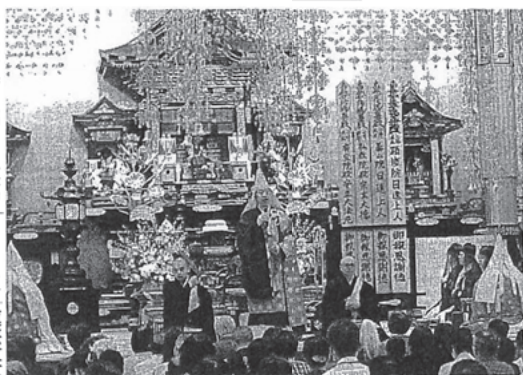
名古屋市昭和区の日蓮宗大乗山法音寺は1日、鈴木正修山首を導師に御開山会を執り行った。各地支院からの参拝者で本堂は溢れ、法音寺の前身である仏教感化救済会以来、慈悲・至誠・堪忍の三徳布教を先導してきた4先師に報恩感謝の誠を捧げた。

法音寺一山および各支院主管が信徒のお題目と共に豪快に散華しながら堂内を練り歩き、最後に導師の鈴木山首が入堂。金信徒も一緒に法華経を誦誦し、お題目を唱えた。法要の最後に御経頂戴が行われ、鈴木山首が「今身より仏身にいたるまで、よく法華経を持ったんやいなや」の発声に続き、金信徒が「よく持ち奉る。南無妙法蓮華経」と応答。さらに「今身より仏身にいたるまで、よく三徳(慈悲・至誠・堪忍)を持たんやいなや」に「よく持ち奉る。南無妙法蓮華経」と唱和した。

山首挨拶では、法音寺のルーツである始祖・杉山辰子が明治42年(1909)に創設した仏教感化救済会から17年目にあたり、「三徳開教17年」とも話した。その杉山辰子の幼少期を紹介。杉山家の家運が傾いていくことを憂慮し、「家を建て直さなければいけない」と思い悩み、法華経行者として知られていた大垣市の鈴木キセ女史のもとで修行を重ねた。その結果、「杉山先生は人間を本当の幸の道に導くには、行住坐臥のお題目と三徳の実行しかない、すなわち慈悲・至誠・堪忍の実行しかない」と確信を持たれた」と原点を語った。

三徳の中でも「堪忍を強調」していたと言い、「口が酸っぱくなるほど堪忍、堪忍を言われた。どんなに良い教え、良い行いでも、堪忍が蔑られなければ雲散霧消してしまつ」と述べ、堪忍の実践を呼びかけた。

御開山会は、仏教感化救済会を創設した始祖・杉山辰子(広宣院殿安立大法尼)二祖・村上斎(弘教院殿宗大徳)に戦



始祖・杉山辰子の歩みを話す鈴木正修山首

後、法音寺を開き日本福祉大学を創立した開山・鈴木修学(泰山院日進上人)、二世・鈴木宗音(顕修院日達上人)の4先師に報恩感謝する法会。

50年ぶりに訪問
日本福祉大学卒業生の山口幸照氏(種智院大学客員教授)の話 さる6月1日に日蓮宗大本山法音寺の御開山会に招待され出席させていただき、550人を越える信徒の皆さんは子ども連れの方や若い方などが多くても活気がありました。法要も40人を越える僧侶による読経で、実に感動的で心に染み入るものでした。境内ではご奉仕の方々によるご接待がなされていました。

日本福祉大学は、開山・鈴木修学先生の願いに共鳴された法音寺の信徒の皆さんの寄付金を元に開学されました。

その後、日本福祉大学は日本を代表する社会福祉学を教える教育機関となりました。また付属機関の社会福祉法人昭徳会も日本を代表する社会福祉実践機関です。

小生は昭和50年(1975)3月に卒業しましたので、50年ぶりに法音寺と日福大キャンパス跡地、昭徳会が経営する福祉施設を訪ねることができました。それぞれの立場で日福大卒業生の方々が元気に働いていて、小生を卒業生だと知るとあたたかい眼差しで応対してくれているのがよくわかりました。ふるさとに帰ったような気分になりました。

鈴木修学先生、鈴木宗音先生(元日福大学長)のことがもっと一般的に知られても良いのと思つて法音寺を後にしました。

幸せの種まき

腹の立つことがあっても
相手を責めるだけでは
何も解決しません

その人をゆるすことができれば
肩の力も抜け、気も楽になり
解決の方向に向かいます

大乗山 法音寺

編集後記

今月号では山首上人さまより『忍辱・感情に流されないようにしましょう』という信仰の指針をいただきました。私達は常日頃から堪忍の大切さを聞いていますが、些細なことに愚痴をこぼし、時には怒ってしまい、その都度、自分の心の狭さを痛感します。

『大乗山法音寺三徳開教百年史（別巻）』には、渡邊秋男さんという昔の信者さんの体験談が紹介されています。

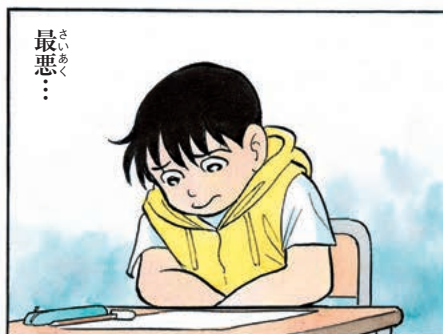
渡邊さんが人生における三徳（慈悲・至誠・堪忍）の重要性を説いたところ、ある人から「世間是不誠実であり、正直すぎることは嘲笑の対象になる」といった現実的な視点を示されました。しかし渡邊さんは、世間が不誠実だからといって自分もそうであってよい理由にはならない。最後の一人になったとしても貫こうと考える、自分の信じる道を歩むことの大切さを確信したといえます。

ひと度怒れば、どれほど徳を積み重ねようとも焼き尽くされるとお寺では教わります。

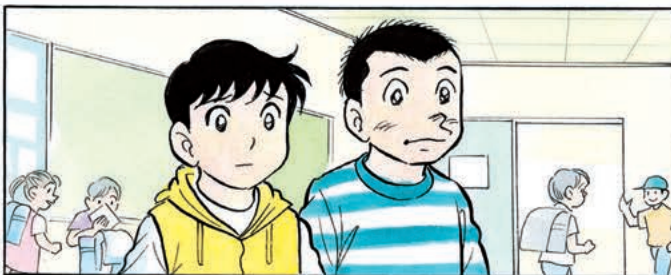
私達も渡邊さんのような大先輩の気概を見習わなければなりませんね。

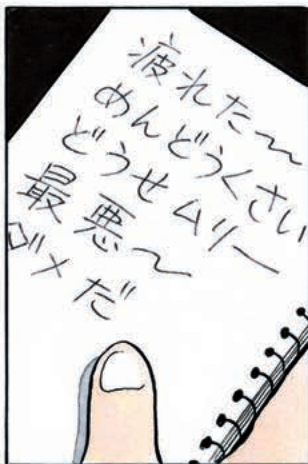
前向きでいこう

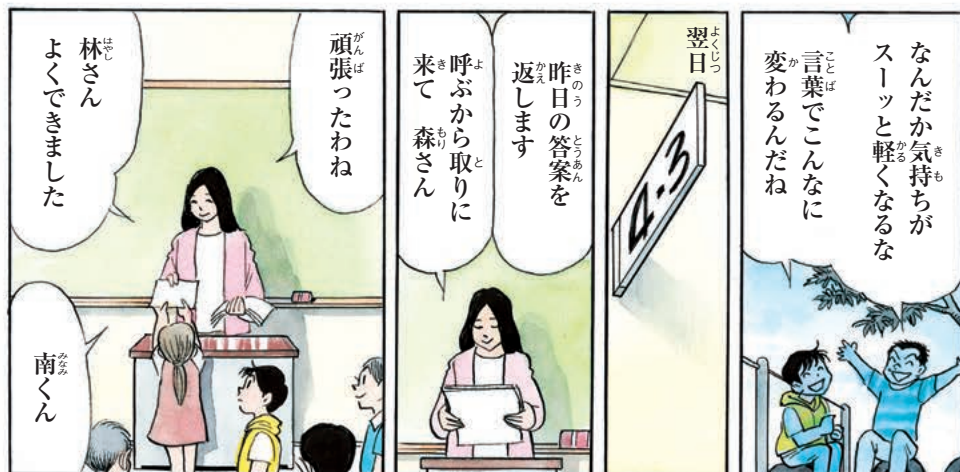
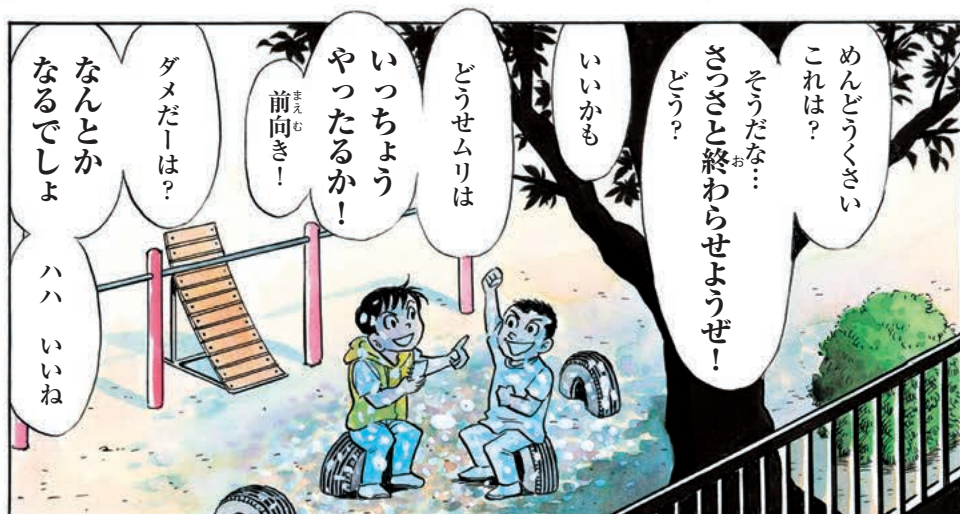
竹中 淳

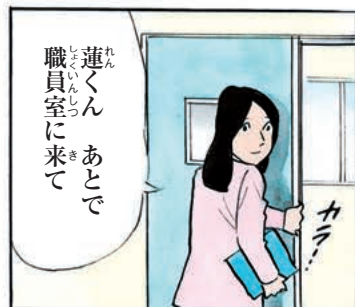
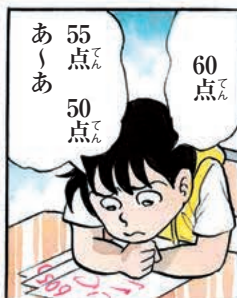




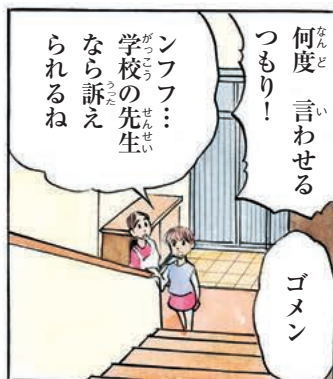












おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





悦可衆心

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂

《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
<https://www.houonji.com> FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています



SNSでつながる法音寺



法音寺公式

facebookで

毎朝7時

『一日一言』

配信!!

こちらの
二次元バーコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日

法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらの
二次元バーコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて

法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらの
二次元バーコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

社会福祉法人 昭 徳 会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保 育 所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10
TEL.(052)831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL.(0569)87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>

